

昭和三十一年九月二十日招集  
第三回定例会(第二日)會議錄



昭和三十一年館山市議会第三回定例会議録(第二号)

昭和三十一年九月二十一日招集

議長(石井潔君) 本日の出席議員数 三十一名(こゝより)  
前日に引続き第三回定例会第二日の会議を開会  
いたします。

議長(石井潔君) 本日の議事はお手許に配布の日程表  
によりいたします。 日程第一陳情書を上程いたします。

(書記朗読)

議長(石井潔君) 本陳情書には紹介議員がおうむい  
でございしますが、皆さん御意見をもつて採択、不採  
択を決定いたしたいと思ひます。よろしく御審議、御発  
言を願ひたいと存じます。

二十二番( ) 此の陳情書は、―― 思ひており

ます。ずっと以前にこのようなことが筋合

いのもんでなかったかと考えておるものであります。

発展をしない。少しも展げない。だんだん衰微するとい

うような声はどこへ行っても聞くとあります。なぜ

そうなるかといいますと、やはり観光という――どう

しても――そのためにより、発展

しない。要するに館山市、館山におる人だけでもってお

たがいにはいい。いっこしておったんでは、少しも発展しない。

やはり、そう外客、よそう土地から、お客をたくさん入

て――それがとりもなおさず、――

回り回って市へも入ってくる。ということでは、よそう土地に

おきまゝでは、全然根拠のないような土地でもなにかあつ

たかうように宣伝をし、計画をし、そしてお客を誘致

する。そして立派な文化都市として発展しておるところ

がたぐさんあるわけであります。とくに館山市のようにな實際に立派な史蹟をもつてゐる。また海水浴場をもつてゐる。だからして、それに対してあまり力を入らなかつた。こういうところに私は非常に昨年来から思つてゐる。また

いろいろそういう点も

解をし、今年度の当初においても観光という点についてわかつてゐるんでありまして、この程度うことならば考え方によつては容易にできることだと思ひますので、速かに採択して

。二十三番（遠山ヨネ子君）はじめうことですけど、山口さんがよく知つてらつてゐると思うんですけど、私は間接に聞いて間違つていたら、ちよつと訂正していただきたいと思います。

ノリウビビを立てるとケガ人が相当あるんで、つていただ

たいというんですけれど、私ははっきりノリの数字ではないんですけれど、大体――ノリの利益があるはず

なんですけれど、ほかの水産業に比べますと、資本が少なくて利益が上がっておりまして、御存知のように――

――みんなこの初に目をつけておりま

して、去年若津初うもより、こちらノリは負けたい品質とノリ腐水もあつたはずなんですけれども、業者はみんな損した、損したといいますが、なかったような様子です。――このヒビを立てるのに、この土地の業界は相当な権利金をとって間違っているかも知れませんが、結局ヒビをとるといふ――

あと始末も相当考慮されてるんじゃないかと思うんですが、ノリの時期は幸いにこれからヒビ立てしまして、ちょうど期間が観光のたい三、四月に撤去して――もう仕事で入らな

ノリ業というのは、観光開始と反対に参りますから、撤去するまで――業者も目をつけ

だしま―たし、業界なんかも相当、目をつけて、いうつゝあると思ひますから、簡単にこゝ一項だけは、入れるということとは、そう入―ていただきないんです。

。二十番(鈴木市蔵君) いま、二十三番議員の説明は、そのとおりですが、私もちやうどそれに関係していたりで、一応説明を加えてみたいと思ひますが、ノリそのものは、いまいった権利金というものは、確かにとつておりますが、現在館山市における漁業としては、ノリというものに対しては、全然経験がないんであつて、他から二、三年それを貸入―た場合に地元の漁民がこれを権利金として、そして、はじめでノリというものを館山市に対して、やろうというやうな方法でもつて、こゝ実情をみると、撤去してもらい

ない。禁止していただきたいというようなことがあるんですが、現在、富津から向うへ行きますとほとんど夏の漁業はやらなくとも、このノリだけでもって漁民は生活をしておるといふようなノリの生産ですが、この点、

この陳情書においては、また海水

相当、

これに対しては考えておるんですが、貸す場合には絶対にノリやビビを残してはいかん。子供や足に刺さつても困るから、また館山船形あたりの海岸地帯としては、地曳を引くために、これに網がかかると網を切るから困るといふような条件をつけて、貸しておるんですが、最近

——これが条件が伴わぬのでノリや——

切ったために、何本かが残って協同組合としては、これも撤去したんですが、全然海水に対しては、ノリやビビはじまにならないうもんでありますから、このノリやビビということに對し



ては、こゝ陳情書から省いてということをお願いいたします。

二十三番(遠山ヨネ子君) 去年私があとでとじが残っているという  
ことを聞きまゝ市役所へ連絡しまゝて、こゝは申し上  
げまゝに決してお互いがとります。観光が水産を  
いゝまゝにしているわけではなく、水産が観光をいゝまゝする  
わけの性質うもんじやないんで、ちゃんとやればできるから、  
両方ともに悪い影響があるといけないから、市役所に  
業者に何って早く撤去するようにいって、こゝと申し入れた  
んですが、それがなかなか行わなかつたんですけれども、とじ  
というものはほんうわずかう費用で撤去できるはずで  
すから。

三十五番(福岡保徳君) こゝ陳情書に市としてすぐできるものと  
利害関係のあるものがあるんで、市ですぐできるものは  
そのまま解決していただいて、あと一項うごときは両

方で話し合いを進めていただいて善処するようになっていた  
だきたいと思ひます。

議長（石井潔君）お諮りいたします。ただいまノリウレビウ  
問題で意見の開陳がございまゝたが、そういう面につ  
きまゝでは、この陳情書を採択された場合には、市当局  
が十分なこの方面との折衝をして円滑に処理すると  
いう建前をもちまゝで、この陳情書を採択することに  
御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。それではこの  
執行にあたりまゝでは、市当局と十分折衝をして円滑  
に双方の希望の入れられるようにしてもらふ。かような  
意味において採択をいたします。そして本陳情書は  
市長の手許へ送付いたしますので、御了承願ひたい

と存じます。

議長（石井潔君）続いて日程第二議案第六十七号、本議案に  
関しましては、昨日、慎重審議の末に総務委員会に付託と  
なりまして、総務委員長より報告を求めます。  
御登壇願います。

（高橋文治君登壇）

二番（高橋文治君）総務委員会を経過し御報告申し上げます。  
昨日より市会におきまして議案の第六十七号の非常勤の  
特別職の職員にかかる報酬及び費用弁償に関する  
条例が総務委員会に付託になりまして、議会議散会後  
ただちに総務委員会を開催いたしましたのでございます。  
総務委員より定員九名うち萩生田議員、中村議員、  
飯田議員は止むを得ない用事のために欠席いたしました。  
て残り六名で総務委員会を開催いたしましたのでござ

います。付託にかりました。議案第一番に鳴議員  
議員から発言されました公聴会を開くという問題  
につきまゝて審議をいたしまして、ございしますが、こ  
は早急を要する問題で本日中に終了しなければい  
けないという気運に迫られておりますので、今  
回は公聴会を開かないということに決定いたしました  
のでございます。次に議案第六十七号を全文にわた  
って審議いたしまして、ございしますが、際昨日  
の議会におきまして削除するという意見もずい分  
ありまして、この点を十分考慮いたしまして、審  
議いたしまして、ございしますが、委員のうちにも  
第七号は削除しろという強い意見もあつたのでござ  
います。なお別表を訂正するという意見もあつた  
のでありますので、第七号と別表第一号表を切離し

審議することに相成ったのでございます。故に第七条と  
一号表うほかは全部原案通り承認決定いたしたので  
ございます。

次に切り離した第七条につきまゝて慎重に審議いたし  
ました結果、期末手当う方はただ名目が変わっただけで  
あるからして、こゝはこゝまま原案通り承認とただ  
夏季手当う方は百分の五ナう方は新しく増額された  
んであるからして、現在館山市は再建整備の途上にあ  
る今日、増額するということはおもしろくないから、こゝは  
削除するということに夏季手当は削除することに決  
定いたしましたのであります。次に別表う第一号で  
ございまするが、こゝは議員の報酬は昨年は報  
酬八千五百円、弁償費が一千五百円計一万円  
でございます。ただこゝは名目が変わっただけである

からしてこれはそのままにしようということに決定いたしまし  
まいたぐであります。

次に監査委員の手当、報酬でございますが、これは  
提案が五千五百円、二千五百円程案さかまいたんで  
ありまするが、この提案さかたうは他の市といろいろ  
関係でもって提案さかたそうでございまするが、一か  
い、監査委員は非常に仕事かふえてくる。のみなら  
ず、この報酬を減額するということはその人々人格を  
尊重する必要があるという建前からいいまする  
八百円減して六千円さらに議会から選出された委員に  
対しましては二百円減、三千円ということに決定いた  
したのでございます。このときに市長さんは提案者はせ  
び原案通り承認を——お言葉もござい

まいたが、先ほど申し上げましたような理由で以上うように

決定いたしましてたうてございます。以上経過の概略を御報告申し上げまして、ただいまお手許に差し上げまして修正案のうに決定いたしましてたうて、議長の方へ提案した次第でございます。よろしく御審議たまわらんことをお願い申し上げます。経過の御報告といたします。

議長（石井潔君）総務委員会委員長、報告と総務委員会から提案さされた修正案をお手許に配布いたしましてたうてございますが、これに対して御質疑はございますか。

二十二番（ ）ただいま総務委員長から経過をお伺いしたんですが、市会から一応付託したんで委員会の決定を私は尊重いたしたいとは思いますが、しかしちょっと腑に落ちない点があるということは公聴

会という意見も出ておった。これを総務委員会で  
 審議した場合に時間的にいときがなかったというよ  
 うなことでありますが、これはなにもかならずしも  
 この会議で決定しなくちゃいけないというものでな  
 いと思う。あとでもさかろうと私は思うんです。そ  
 う点といまひとつは昨日の本会議で出まいたのは赤字  
 であるということばかりでなく、さらに例え自治法で期  
 末手当というものがきまっても、こいつは一応　それ  
 に合わせて赤字であるんだ。もう一年か二年という  
 ところなんだというような強い意見がたくさん現わ  
 れておったのであります。また、この給料の点につきま  
 して



議長（石井潔君）他に御意見ございますか。

二十八番（嶋貫壮作君）私は一応

許さるなうば。

という条件のもとに公聴会を開いていただきたいという  
ことを要望したうであります。この公聴会を開く時日  
が近い。いうような点で却下さ小なわけであります。時  
日がないという点を少く説明していただきたいと思ひます。  
議長（石井潔君）——ばらく休憩いたします。

議長（石井潔君）再開いたします。

二番（高橋文治君）先ほど嶋貫議員さんから御質問に  
対しましてお答えいたします。先ほど経過報告の際に  
公聴会は時間が——決ったという

ことを御答弁申し上げましたんですが、実は本日もち

でに

事務局長さんもお話もありま

たし、なおこの問題は議員——に關係する問

題でもあります。なお館山市の委員会条例にも

その十八条にも委員会が公聴会を開こうとするとき

は議長が承認を得なければならぬ。議長は前項

の公聴会開催を承認したときは、その日時、場所、案件

及び意見を聴こうとする必要事項を公衆が見易い場

所に公示しなければならぬということもござりますので、

相当に日時を要すると考えまして、意見が、それでは

こゝ際公聴会を開くことは遠慮しようじやないかと

いう意見がまとまりまして、報告いたしたような次才

で御了承いただきたいと思ひます。

議長（石井潔君）委員長報告に對しまして他に御質疑

ございせんか。

十一番(伊勢仙之助君)先ほど二十八番議員からおっしゃいましたとおり、私は実際

過程に出ました意見を尊重していただいて総務委員会に付託していただきたいという要望であったわけなんです

が、審議の過程におきましては期末手当は出さないんだという意見も相当あったふうに我々はおったのでありますけれども

結果的にみまわってわかれや意思と非常に反するものが委員会から出て参りまして、この委員会を尊重しないと

いうようなおかしな結果が出てきたんでありますけれども

できるならば、委員会、そのものを十分信頼して

尊重すべきでありますけれども結果においてこういうふうな修正案が出るということに対しては全面的に反対であります。七条の全文を全部削除しろと

いう意見に私は――

遺憾ながら――

委員会より決定さされた修正案は、審議に入りませんが、私はこれにつきましても賛成者がたいというふうな意見をもっております。なおこの問題については

委員会も非常に時間がかかったことでありましようし、審議の過程においては十分話しさらに審議しつつ

さかたと時間的な関係で――

考えら

れるのでありまして、この問題について審議願いたい

――もう少し金買の主張する方向をはっきり見出してここですぐ採決でなくしていましばらく皆さん御

意見を伺って――

このように

考えておる次第であります。

議長（石井潔君）本案に対しまして、他に御質疑ございませんか。

二十九番

(ただいま委員長の報告は統務委員会の経過の報告でありまして

委員会より審議によつて修正案が出された。こういう報告でありまして、この修正案を議題として審議を願いたい。

議長(石井潔君)ただいま二十九番議員から委員会から提出された修正案を上程して、これを審議すべきであるという御意見が出されたが、この御意見に御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議ないものと認めます。よつてこの修正案を議題といたします。修正案に対する御意見を伺います。

二十八番(嶋貫杜作君)監査委員の手当が六千月に修正

されているのでありますが、もういっぺん繰り返してお尋ねいたしますが、これは前のもうと同様でありますか。

二番(高橋文治君) 自席からお答えいたします。今までは六千八百円でございまして、議会から選出された委員は三千二百円でございまして、

二十八番(嶋貫壮作君) それを、なされるに、どういう根拠で――

――なされたか。

二番(高橋文治君) お答えいたします。昨日、提案したところ、五千五百円は、他、市といろいろ参酌いたしました。まして提案いたしたというふうなことを聞いております。同時にいままでは六千八百円であつたのをあまりにも仕事がついてくる非常に熱心におやりになさる――

――いうが、ひとつ。

ほか、教育委員のほうに――

――現在ずっと

おられる方をあまりにも下げるのは、その人々人格を尊重すると、下げすぎるんじゃないかという御意見も出まいて、その中間をとって六千円、三千円にいたので別に――

・二十八番(鳴貫仕作君)私は過去二回監査委員を勤めさせていたんですが、その体験から申し上げるとかなり忙しいであります。議会から出た委員は別問題です。学識経験をお持ちの方から選任されたものについては増額をさえてやるべきじゃないか。こう考えておったのであります。ところが、きのう市長さんのお話に、他市より振合いということが原因のように考えて、他市より振合い、ほか市でなにか事故が起ったときに館山市に――こういうことになろうと思ふんであります。

他市の申し合わせは市長として申し合わせてあつて、  
議会はそれにはなんの関係もないのであります。

議会は市長はそういうふうに取り決めたことをそのまま、  
ま、うのみにするということは私は議会に威信にかけて  
もどうかという問題を考えるのであります。

それから議会は議会として独自の立場で妥当な方法  
によつて決定して行くべきものである。こう考えています。  
であります。

従いまして他の市でやったからということには  
——にはなるかも知れませんが、それをもつてただ  
ちにこの市でとつてやらなければならぬという理由は、  
豪もないと考えます。この意味から行きまして監査委

員の報酬を上げる、下げる、についても——

特別あつた方とえられた権限の範囲内において今、  
少しく問題を——  
みつめて、さうしてゐていただきたいと



考えておったのであります。それでお尋ねするわけですが、どうも瞬に落ちないんであります。

市長（田村利男君）他市より振合いでゐたことはそうとおりでございします。各市々各委員が月何回、年何回出席してゐるという数字も全部こちらでとていろいろ勘案してゐるわけにございします。書いたものは秘書課の方についておりますが、記憶だけですが、一月に木更津は年に七十二回だと思ひます。館山が六十何回という事になつておりまして、そういう意味からいいますと、やはり市会議員の報酬が大体他市と同じようなことになつておりまして、監査委員の方もやはり同じ財政状態のＢクラス、市におきましては同じ歩調をとつた方が妥当であると考えましたので、原案を作成したわけでございします。ただいま申し上げましたのは、間違つておりません。館山が

年六十回、木更津が六十五回、松戸が七十七回、野田が十八回、佐原が十七回、茂原が三十回でございます。

こゝをみましても、松戸が年七十七回でございます。佐原が十七回でございます。最低が十七回、最高の松戸が

七十七回に對しまして、館山が六十回となっております。

二十八番（嶋貫杜作君）こゝはいつの報酬ですか。

市長（田村利男君）去年だと思ひます。

二十八番（嶋貫杜作君）去年の統計をもつてやるということは無理であります。

市長（田村利男君）無理かどうか知りません。私りとした統計上の根拠では大体、こゝういうふうになっております。で、二十八番（嶋貫杜作君）そう統計が正しいもんであつたはいいんです。

市長（田村利男君）市長の名において発表された各市からの

二十番(嶋貫杜作君) ほか市のこととは、申し上げません。  
当市のもうが正一ければいいんです。

市長(田村利男君) 監査委員の方へ問合わせて聞いた数字でございします。監査委員の事務員、去年だと思ひます。  
わかりません。

二十八番(嶋貫杜作君)

市長(田村利男君) 数字を嚴格にあげるとさういうわけでございします。大体数字も大差なしと市会議員、Bクラス、Aクラスは一万円、大体並行しておるというので、各市が、大体四千万ないし五千万という状態であつたのを

木更津だけが五千五百円という最高が出たので、館山市はその最高にたつて、こういうわけで、根拠といえ  
ば、それが根拠で法的な根拠がなかったことは事実で  
ございます。

議長（石井潔君）他に御質疑ございませんか。御質疑が大体出つく、たように思われますが、本案を採決すること、御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

十一番（伊勢仙之助君）議事進行について一応休憩にまゐりて、その後において、さらに意見を聞いて、そのあとに採決というふうに慎重にやっていたかと思ひます。

議長（石井潔君）一ぱらく休憩いたします。

議長（石井潔君）休憩前に引き続いて会議を開きます。  
議長（石井潔君）委員会提出の修正案に対して他に御質疑  
ございませんか。

二十四番（

十一番（伊勢仙之助君）ただいま二十四番議員から賛成の御  
意見が述べられました。今まで審議過程におきま  
てほとんど反対者の意見ばかり出ておりまして、  
こういう理由で賛成するんだという点は明確に打ち  
出されておりません。そういう方たちも意見もはっきり

と、ここで発表していただいて、わいわい、どうしても、もう  
うことが妥当だと納得することをお願いしたいと思います。  
私たちといたしましては、こゝ自治法の判定、精神とい  
うものをよく考えてみれば、従来通りで変わらないから  
いんだと、そういう考えが毛頭出てこないんだというふう  
に考えておるわけであります。私たちは、そういう観点  
から、改正さへまゝな自治法、精神、というものを汲ん  
で、一応こゝ々条を削除というわけで、修正案に反対  
という事になっておるわけであります。そういう音で  
賛成だ、という意見が二十四番さん一人か出ておられま  
せん。こういう音で賛成だ、ということ、明確に発  
表していただきたいと思います。

二十九番

こゝ議案につきましては、昨日も本

会議で審議され、本会議で、審議ができなくて、終務

委員会に付託になった。総務委員会におきまして慎重審議下すつて先ほど報告通りであります。この第七条を検討します。ただいま、脇田議員から意見がありまして、従来は自治法において期末手当を出してよろしいという条項がなくて、そして——手段を与えてばかり名目で期末手当を出してあった。また、わいわいも——

今回、自治法の改正によりまして、期末手当を出してもよろしいと、こういうことになって、執行部におきましても——

考えて、そうして提案された。このお気持ちもよくわかります。もうひとつ、問題になりまして、が、監査委員の報酬であります。これは、従来、六千八百円、議会選出の監査委員は三千二百円、それで今回、市長さんがブロック会議が、なかなかわかりませんが、とにかく会議にお出に

なつてそうして県下の各市の情勢のもとにA級B級、  
通じての最高額がこの館山市がA級になるのですが、A  
級の最高額を決定した。そしてこの案を出した。そのお  
気持もよくわかります。他市にならうてゐる必要はないと、  
こゝろ申せばそのとおりであります。が、実際問題として  
赤字を背負つておる市が、他市が――うち  
の方は出せるというふうに――ことはどうかと思ひます  
んで、そこで総務委員会がそういう面も――  
いわゆる折衷案と申しますか、――こゝろい  
うことは非常にお苦しみになつてこゝろ線を出したという  
点もわかります。こゝろいう意味合いで私はこゝろ総務委  
員会がお出になつた修正案に賛成するものであり  
ます。



議長（石井潔君）大体討論が終結いたしたように思われますので、総務委員会から提出された修正案に対して採決をいたしたいと存じます。こゝより議案第六十七号にかかる委員会修正案に対する採決をいたします。お諮りいたします。こゝ表決は無記名投票により行います。御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって表決は無記名投票により行うことに決定いたしました。念のため申し上げます。会議規則第七十五条の定むるところにより、白票・青票により行ないます。修正案に賛成の方は白票を、修正案に不賛成の方は青票を、それぞれ点呼に応じ登壇の上、御投票願います。

投票点検立会人二名の選任を行います。この立会人は  
会議に諮って選任する規定になっておりますので、議  
長より指名して決定することに御異議ございませんか。  
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。よって立会人として  
六番議員秋山万次君 三十三番議員後藤ゆき君以上  
御両名に決定いたします。御異議ございませんか。  
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。さよう決定いた  
します。これから投票を開始いたします。議場へ  
出入口を閉鎖いたします。

白票、青票の配布もございませんか。念のため、重ね  
て申し上げます。修正案に賛成の方は、白票を投じ  
願いたい。修正案に不賛成の方は、青票を投じらな

たい以上、重ねて申し上げます。点呼をいたさせますので、こまきり、投票をお願いいたします。

(投票)

議長(石井潔君)投票も小は、ございませんか。投票も小なしと認めます。投票箱を関鎖いたします。

議長(石井潔君)こまきり開票を行います。立会人う参集を求めます。

議長(石井潔君)申し上げます。出席議員数 三十名、投票総数 三十票、可とする白票 二十五票、否とする青票 五票、以上う表決の結果、修正案は決定さ小きいた。議長(石井潔君)つづいて本案すなわち修正案に属する部分を除いた原案全部う採決を求めます。

総務委員会から提出さ小きいた。ただいま採決さ小きいて決定さ小きいた修正案う七条と別表一号う監査

委員の報酬の部分を除いたあとより原案について御賛成の方は御起立をお願いいたします。

(起立多数)

議長(石井潔君) 起立多数 よって議案第六十七号は決定いたしました。

議長(石井潔君) こより休憩に入りますが、一時半まで休憩をいたします。

議長(石井潔君) 午後う出席議員数 三十名、こより休憩前に引続き会議を開きます。

議長(石井潔君) 日程第三議案第六十八号を上程いたします。

(書記朗読)

・総務課長（完戸責君）議案第六十八号の概略を御説明  
申し上げます。最初、この条例を提出いたしました理由  
について申し上げます。地方自治法第二百十  
三条の一項に普通地方公共団体は法律または法令に  
基く政令に特別の定めがあるものを除くほか、財産の  
取得・管理および処分に関する事項は、条例でこれを定  
めなければならぬというふうに規定があるわけでございま  
す。当市におきましては、昭和十八年に議決をいたし  
ました財産の取得・管理および処分に関する規則が  
定めてあるわけでございます。従来はこれを適用して地方  
自治法施行後も別に条例を設けずに運用してき  
たのでございます。もちろん、この場合は地方自治法  
の第六十条の経過措置によりまして、条例と同一の効  
力を有するというふうに規定してございますので、

従来の施行規則の効力がまったく条例と同じでございます。――カーナから時代がだんだん変わって参ります。地方自治法施行の本旨にも条例で定めるといふうにございます。で、いつかはこゝ規則を改めたいところのように考えておったのでございます。――かも現在う右の規則は相当年月を経っております。――すでに不適当な個所も生じているのでございます。――よって今回本条例を制定――まして市有財産の取扱い、管理、及び処分等につきまして、その万全を期したいといふうに考えるのでございます。

以下逐条的に概要について御説明を申し上げたいと存じます。第二条でございます。こゝは市有財産の範囲を分けて八つといたしました。こゝは国有財産法、第二条でこゝ国有財産の範囲を規定しておるので

ございます。こゝを参考にいたしまして本市に適用する  
ように考慮いたしたつてございます。次は第三条でござ  
います。財産の区分及びその種別について規定いたし  
たつてございます。こゝは財産の区分・使用とも関連を  
いたしたつてございます。次は第四条でございます。が、  
財産取得の場合、その取得前より処置について規定をい  
たしたつてございます。こゝの場合、取得とは購入・建築・  
寄付・交換等、財産の——と成る一切の——と  
さします。次は第七条でございますが、第七条以下第二  
十六条までは財産の管理について規定したものでござい  
ます。こゝの場合、管理とは財産の移転または増減を  
生ずることなく、性質を変更しない考えで維持・保存及び  
運用することとしたまゐりました。

第八条は異なる会計間、所管がえをしたとき、事務

処理でございます。第十條では教育委員会として、財産管理者に對しましては、その所管財産の状況について毎年二回現情狀報告の義務を負わせたいでございます。これは今般の地方自治法の一部改正によりまして二百十三條の二の一項の規定を採用するものでございます。

それから第十一條の但書でございますが、この意味は、行政財産は本来公用または公共用にあててゐるものでございす。もし将来庁舎等を新しく建つた場合、その一部を食堂に貸付けるとか、あるいは輕喫茶の設備をするとか、そういったような場合、その開設を許すというふうに本来の使用目的と相反しない程度でその使用の便益を図るという――ものでございます。

第十三條では、雜種財産の管理及び処分はすべて市長



に属することを規定したものでございます。この場合処分とは売却・交換・譲与等財産について権利を移転しまたは——  
——事実上の変更を加える等、財産の——となる一切の行為をさしてゐるものでございます。第十四条は、雑種財産の処分、その他に属する範囲を規定したものでございます。

それから第十五条ないし第二十六条までは、財産管理のひつとつゝ大要について規定したものでございます。財産の貸付に關する規定でございます。第二十五条でございますが、貸付契約解除の場合を規定したものでございます。これは——  
——という

見解のものでございます。

第二十七条以下三十四条までは、処分に關する規定でございます。処分の意味につきましても、すでに第十三条で申し上げまし

たとひでございます。それから第三十八条では売却の場合原則として一般競争入札にするということ、貸付の場合も同様でございます。これは地方自治法二百四十三条一項の規定に基くものでございます。第三十五條は普通財産中、基本財産に属する不動産及び金穀等、貸付について、雑種財産の貸付關係條例を準用することといたつてございます。三十六條は條例の施行上、必要な事項につきまゝては規則に委任する、という規定を設けたものでございます。

議長（石井潔君）本案に対して御異議ございませんか。

五番（萩生田七郎君）六十八号議案、そのもうには異議はござ

いませんが、ちよつとこの條例執行上について、市長さ

なり、あるいは課長さんなり、心構えと申しますか、

その点、参考までにお伺いします。が、この條例は大体

ノーマルな状態にある。つまり常識の範囲において  
——とて判定せられたいものでございますが、ただ  
ちにこれは問題となるのは土地に関する市有地に関す  
る規則あるいは——の問題であらうと思ふんで  
ありますが、例えば、実際においてひとつ市  
となつております市有地の問題であります。巷間傳  
えられるところによると——いわゆる市に

無断でもってこれを 사용하여、これを既成事実として  
押しつけられるという場合、これは善意と悪意と両方  
に解釈されると思ふんですが、善意の場合は一ぱらく  
この条例を適用することは——悪意  
によつたような場合あるいは作爲的によつた場合にお  
いてこの条例をどうも——

いわゆる既成事実、勝手に使ったものは、そのまま権利が

あるいは貸し付けられる、あるいは払い下げられる、

その権利を取得するという結果になるのではないかと思う

のでありまして、その点についての市長さんなり、課長さん

なりのお考えを承りたい。それから、この追加規定の付

則であります。四項の前項に掲げる行為であつて

この条例の規定にてい触するものは、そのてい触する限り

においては、なお、従前例によつてあります。従前の

例というものは、あいまい模範としておる。これをどう処理す

るか。これは、相当大きな問題に相成ると思ふんですが、

とくに課長さんは、課長さん、在職当時、いわゆる、その市

有地の問題について、———というよう

な疑いを持たれる行為を、その責任者として、あなたは

おゝりになつてゐるだけに、この処理は相當に慎重を要する  
んじゃないかと思ふんであります。こゝについてうお考え  
いわゆる善意に基く市有地の使用といふことは構わな  
いと思ふんですが、作爲または悪意による市有地  
端的に申せば、不当使用を既成事實として、それは仕方  
がない。だから貸し付ける。あるいは払下げるといふ  
ことに相成りますと、正直者は馬鹿をみるといふ結  
果を招来するであります。この点につきまゝて、はつ  
きりしたひとつの方針を承りたいと思ひます。

・総務課長(完産貴君)お答えいたします。ただいま市有地の  
問題につきましては、市の方でも、実地調査しております。  
もちろん、この市有地は、各旧町もしくは旧村時代から、そ  
れが貸付あるいは使用されておつたものであります。  
その根本にさかひぼる場合には、三十年あるいは五十年とい

う。遠い昔になるわけでございます。一カーナガラ。この  
 市有地が相当数ございまして、こゝが広い場面もあります  
 し。または一坪とか二坪とか、そういうふうな、きわめて  
 小さい土地もございます。こゝらが、旧市、旧村内に散在  
 しているわけでございます。こゝ所在個所は、財産台帳  
 によって明瞭でございますが、現状につきましては、現在  
 鋭意調査をしております。一、まづ、その実態が明瞭にな  
 っておる。でございます。ただいま御質問がありまして、た  
 とおし、悪意、または作為による不正使用等によりまし  
 て、その財産が犯される。一、かも、それが既成事実を形成  
 しないかというふうな御心配でございますが、こゝらにつ  
 きましては、この際調査いたしまして、処分すべきものは  
 処分し、あるいは、貸貸借契約によりまして、契約す  
 べきものは、契約して、そして、財産確保の万全を期し

たいとこつように考えております。

五番(萩生田七郎君)了承いたしました。私う聞くのは課長さんうおつゝるとおり。十年二十年前あるいは三十年前あるいは旧村時代う問題とかこゝろはないんです。少くとも記憶に新たなものぐらい。いわゆる既成事実といまおつゝるが、こゝろは貸しましう。あるいは事情によつては払い下げましう。一かー私う申し上げた作為その他う問題でそううたときに貸したり払い下げたりすることは正直者は馬鹿をみる。悪いことをして既成事実をつくつて、それでもつていいんだといまう課長さんう答弁は悪いことをしたけれども仕方がないから払い下げるのである。貸したんであるというふうにこゝろから処理するといふんであります。が、それでは正直な市民は納得しないんだといふんです。それにつ

いては、こゝ、悪意である。作為である。計画的にやるという  
 ことが明瞭になった場合には、こゝはもつと後嚴な態  
 度で臨まなければ多量に市民は納得しない。私という  
 のは、それなんです。全然、そういうふうな意思がないと  
 いうんで、たら、こゝ問題は再検討したい。かまうに思  
 うんですが、あなたは市々理事者として執行機関と  
 てとくに課長さんは責任者において、

もういっぺん答弁願います。

・総務課長（完戸貴君）も、不正な作為等によりまして、市々賤  
 産が犯されたというふうな場合、こゝ処理等につきましては  
 慎重な態度によりまして、市民からもつともであるという  
 ような方法によりまして処置をいたしたいと考えます。

・五番（萩生田七郎君）了承いたしました。



議長（石井潔君）他に御質疑ございませんか。御質疑がなければ本案は決定いたしたいと思います。但し、決定することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって本案は原案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）続いて日程第四議案第七十号を上程いたします。

（書記朗読）

（御説明申し上げます。館山市農業協同組合設置条例でございますが、これはいままで報酬を支払っておりまして、自治法改正によりまして報酬を支給することができなくなりまして上程したわけでございます。）

今まで市には農業協力員と農林調査員が二つござい  
ました。昨年までは地区によりまして別々う人がゑて  
おりまして、本年からは同一人がやるようになりました。  
農業協力員は農業委員長が委嘱し、農林調査員  
は市長が委嘱する。同じようなことを二人、両方から委嘱  
するようになつておりまして、地区――

議長（石井潔君）本案に対して御質疑ございませぬか。御質  
疑がなければ本案を決定いたしますことに御異議ござ  
いませぬか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よつて本案  
は原案通り決定いたします。

議長（石井潔君）つづいて日程第五、議案第七十一号を上程

いたします。

(書記朗読)

(議案第七十一号について御説明申し上げ上  
げます。議案第七十一号は七十号と同様系例化して

報酬が支払えまosenので、これを

—ただけでございます。

議長(石井潔君)本案に対して御質疑ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

大番( )

(病虫害防除費員は現在ボリドール  
あたりを使用しますのと  
変わってきた関

係であつて出します予算に更正いたしまして――  
――― 必要ないと思ひまして削つて――まい  
まいだ。それから土地改良委員ですが、これもあまり  
必要がございませう。――― ほかり――― に回つてござ  
います。

六番（ ）

（ ）――― 事業面に回す予定  
でおります。

議長（石井潔君）他に御質疑ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よつて本案  
を決定することに御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって本案は、原案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）続いて日程第六議案第七十二号を上程いたします。

（書記朗読）

保険課長（唐沢貞太郎君）議案第七十二号につきまゝて御説明申し上げます。本議案は豊房診療所の使用料条例の一部の改正でございます。従来は使用料条例の一点、単価は国民健康保険の被保険者及び一般診療者より一点、単価を十一月とするという規定になっておりまして、診療所の会議によりまして、昨年来よりこの点を改正した方がいまいやないかというふうな懸念案になっておりまして、本年の七月になりまして、安房郡市の保険者会議の席

上におきまして今まで十一月四月でありましたものを  
十一月四月五十銭にするというふうに打ち合わせが決りまして  
そう決まりましたものを市や国保運営委員会に諮り  
ましたところ御賛同を得ましたので、ここに本案を  
提案した次第でございます。

議長（石井潔君）本案に対して御質疑ございませんか。

二十八番（嶋貫壮作君）但書をちやっと読んでみていただき  
たい。

保険課長（唐沢貞太郎君）但し、国民健康保険被保険者  
及び一般診療療者より一点単価は十一月とする。

二十八番（嶋貫壮作君）それを削ると十一月五十銭になるこ  
とになるんですか。

保険課長（唐沢貞太郎君）そうでございます。この前文に  
おきまして、このものは十一月五十銭とすると、ただし

こゝこゝ、こゝいうものについては、一点単価は十一円とする  
というふうに但書で規定されています。関係上、あとう  
但書を十一円を切りますと、前文が適用になります。  
十一月五十銭になるというふうになっております。

「わかりました」と呼ぶ者あり

議長（石井潔君）御異議ございませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって本  
案は原案通り決定いたします。

議長（石井潔君）つづいて日程第七、議案第七十三号を上程  
いたします。

（書記朗読）

（議案第七十三号について御説明申  
し上げます。）十九日に市内の建築業者を指名いたし

まゝで競争入札いたしましたところ、最低の関万次郎さんが落札いたしましたので、百八十三万円で契約いたしました。と思うものでございます。なお、この校舎の構造は木造、波型スレート葺き、平屋建て、三教室、七九・七五坪でございます。

議長（石井潔君）本案に対して御質疑ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって本案は原案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）つづいて日程第八議案、第七十四号を上程いたします。

（書記朗読）

（七十四号について御説明申し上げます）

が、これも先ほど七十三号と同じように建築業者



にあって競争入札いたしました結果、最低り高橋ヨシオ  
さんが落札いたしました。たゞで百六十三万円で契約いた  
—たいと思うもうでございます。

なお、こゝも構造は木造波型スレート葺き平屋建て坪  
数は七十二坪五合でございます。ふけり三教室でござ  
います。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって本案は、原案  
どおり決定いたします。

議長（石井潔君）一ぱらく休憩いたします。

議長(石井潔君)休憩前に引き続いて會議を開きます。  
議長(石井潔君)つづいて日程第九、第十は予算案でございますが、こゝに二議案を一括上程することに御異議ございませんか。

(「異議なしと呼ぶ者あり」)

議長(石井潔君)御異議ないものと認めます。さつてこゝに日程第九議案第七十五号、日程第十議案第七十六号を一括上程いたします。

(書記朗読)

・総務課長(完戸貴君)議案第七十五号、歳出から御説明を申し上げます。第一款、議會會費でございますが、こゝは追加予算をいたしまして、差引き増減ございません。  
第二、市役所費でございますが、今回乗用車購入費をいたしまして、百七十五万を計上いたしました。それから

九万七千二百九十五円を

計上いたしました。七月三十一日に退職いたしました

がありますので、この退職金でございます。

第三款の消防費は四万円追加をいたしました。これは  
危険物取締

講師として千葉消防署から四名招へいをいたしまして  
試験前に講習をいたしたいという考えから、そう謝礼  
でございます。

(第七款教育費について御説明いたし  
ます。教育費におきまして三十五万五千円の追加でござい  
ますが、この財源は国庫補助金十万円、寄付金二十  
五万五千円でございます。教育委員会費におきま  
して委員給を十万円更正いたしました。これは先に退  
職いたしました前教育長と山口五事の給料の残額

でございます。小学校費におきまして、五万六千三百

二十四回の追加でございます。需用費、報償費、賃

金、関係は学校給食、給食炊事婦の報酬としま

しては、今まで報償費から謝礼として出しておつたんで

ございますが、今回、自治法改正におきまして、この解

釈は賃金の方へあげるべきものということに解釈でき

ますので、賃金の方に費目を変更いたしました。

四項、公立学校図書館、図書、その他整備費にお

きまして、五万一千三百二十四円、追加でございますが、

これは本年度対象校となりまして、館山小学校、北条

小学校、西小学校、畑小学校、神戸小学校、ソノザキ

分校の五校に対しまして、整備費でございます。

営繕費におきまして、工事請負費で北条小学校東

むね校舎修繕および排水工事として、一万五千円計上いた

ーまーた。こゝは北条小学校の一番東にございます。

いままで館山高等学校が使用しておりまーた校舎でございしますが、<sup>と</sup>北条小学校の方でいままで圧縮しておりまーた学級を元に戻しまーたので教室が不足になりまーたので、今まで高等学校で使用しておりまーた校舎を修繕いたしまーて北条小学校の教室に充てようというものであります。北条小学校講堂修繕工事費で五万円、こゝは現在工事を行なっております。修繕工事費のうち玄關のところはトめり見積り請いて非常にこわいておりますので、こゝを追加工事として行いたいというものでございます。館山小学校の給水施設その他工事費七万円でございます。館山小学校は健康教育指定校になっておりますので、こゝ前県から現視察に参りまーて給水施設が不備ということ指摘さまーたので

今回この額を計上いたしまして、この施設を整備しようというものでございます。中学校費におきまして、十九万九千六百七十九円、追加でございます。需用費の補償金および補てん金で十二万。家屋移転補償料を計上いたしまして、これは先ほど工事請負いで議決願いたしました校舎を建てるためにその敷地にあっておりますところに民家が一軒建っておりますので、それを今回移転させるための補償料でございます。

四項の公立学校図書館図書、その他整備費で一萬一千四百四十四円、減額。さらに五項の図書館理科教育設備費で三万九千九百十円を更正いたしまして、これは該当校は、房南中学校でございます。

六項の営繕費、工事請負費で第二中学校木工室建築工事費として二十万円を計上いたしまして、第二中学校

におきましては、昨年、本年と産業教育の指定校になつて  
おるんで、昨年設備の方で木工機械を購入してあるんで  
ございますが、学級増の関係で木工室がありませんので  
今回二十八万円で木工室を建築しようというものでござい  
ます。高等学校費におきましては、二十万円の追加でござい  
ますが、二目り諸手当で三万五千円、退職手当として追加  
いたしましてたが、こゝは高等学校の事務官が一人退職い  
たしましてたが、その退職手当でございます。

六目り公立学校理科教育設備費で二十万円を追加い  
たしましてたが、こゝは本年度高等学校が理科教育の  
補助対象校になりまして、その半額が国庫補助として  
交付されるものでございます。七項の公民館費九項  
の図書館費の費目は、看守人の謝礼を賃金の方に  
組替えたものでございます。

(農林費について御説明申し上げます)

病虫害防除費の雑手当を更正いたしまして、原材料

費に回わしました。こけ防除 — 9 — 手当で

ございます。今年度から毒物を扱うに指導員を

指定いたしまして、いままで大体各地区に一人が二人が防除

員がありましたが、こんど部落によりまして全然いない部

落が三部落最低一人から五人の指導員がおりますので

手当の支給に困る関係で、それに今年はウニカやかい虫

相き、薬を使った関係でその費用を — に回 —

— ことから十二款の統計調査費ですが、こけ七月

一日に施行いたしました。

調査の費用でござります。一万九千七百四十円、これは、

全部国からくることになっております。

。事務課長(完貴君)十五款の支出金として十三万九千円追加



をいたしました。こゝは家屋調査うため、市内に出張いた  
しました臨時雇う出張費として、今回新しく設けけたもう  
でございます。旧村・旧市に分けまゝで、合計十三万九千円  
でございます。歳出合計が二百三十一万五千三十五円でご  
ざいます。つぎは歳入について御説明申し上げます。  
歳入の第三款の公営企業および財産収入として百五十万  
円を計上いたしました。こゝは自転車等の競技収入でござ  
います。四款の使用料および手数料に九千円を計上して  
ございますが、こゝは十月の二日に危食物取扱

の試験をいたしたいと考えまゝで、その手数料が六千円と  
免許交付の手数料が三千円収入になる予定で計上いた  
したでございます。五款の国庫支出金は、十一万九  
千七百四十円でございますが、こゝは館山高等学校

統計調査員 — 基本

調査の委託金でございます。

七款の寄付金は四十

八万六千二百九十五円でございます。

これは土木費とい

まして二十万。これは館山さん橋修築費として東海汽

船から寄付になったものでございます。

教育

寄付金

二十五万五千円は、それより北条小学校、館山小学校、第二

中学校の寄付に伴う地元の寄付金でございます。

市勢要覧の寄付金は三万一千二百九十五円でござい

が、これは市勢要覧の作成費として各商店からの寄

付になったものを賤源にあてたものでございます。合計二百

三十一万五千三十五円でございます。

・保険課長(唐沢貞太郎君)特別会計の豊房診療所の更

正予算について御説明申し上げます。本予算は給

与条例の一部改正に伴いますところの組替予算でござ

います。

二十七万円、手術手当り十萬五千五

百円 婦長手当り三千五百円を各々職員手当り特殊勤務手当り——手当二十七万 手術手当十萬九千円に組替えたものでございます。

議長（石井潔君）議案第七十五号議案第七十八号について御質疑ございますか。御異議なければ決定にいた—たいと思ひますが、決定することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）異議なしと認めます。よって、本案は決定いたしました。

（病虫害防除費）——こゝ手当をなく—たら非常に困るんじゃないか。

（こゝは今まで各地に同じ数がおつて、その人にゐっていたたきま—たが、こんど新しく指導員ができた關係で—

まちまちになりまして全然いい  
部落もございますし、多い部落には四五名おりますので  
分けようがなかったんで

議長(石井深君) 日程第十一議案第四十九号、ただいま議  
案を配付させます。

(書記朗読)

市長(田村利男君) 説明申し上げます。こゝ前々協議会  
とき、教育委員の任命につきまして方針を申し上げます  
いたとおり旧大井村地域から二人旧館山、北条、那古、船形  
から二人、別に教育長候補者としてう——選定すると  
いう一党一派に偏らない識見、人格ともに優秀な人を  
選んでわけでございます。なにとぞ満場御賛成  
をお願いしたいと思います。大体経歴を申  
上げますと、網代富蔵君は日本大学歯科学部を卒業

なさいました歯医者でございます。大西鷹一郎君は慶応  
大学出身。——でございます。神作敏男君は、

日本大学医学部卒業の眼医者でございます。工藤利  
平君は、一高校長でありまして、果て教育長からすてに  
内諾を受けてございます。早川権治君は、はじめての  
方が多いかと存じますが、外国語学校英語科を卒業し  
て、日本郵船のロンドン支店長だったか、とにかくイギリス  
の支店長でありまして、日本郵船の本社、重役、参事と  
やっておられた方で、戦後畑の山の中へ引込んだ男でござ  
います。以上、五氏でございます。なにとぞよろしくお願  
いします。

（「真議なし」と呼ぶ者あり）

十一番（吉田勇治郎君）この任命するに当りまして、一応  
任命までの経過がどういふ点について

御質問いたします。こんど教育委員を改選される趣旨というものは教育の自主性中立性——こういう

ような要素によって改選されたと思ひますが、聞くところによりますと、いろいろと政府の方では——申します

と、自民党ですが、ああいうものから支部に対して、いろいろ要望というものを——たというふうに解さいます

が、我々が考えますと、市長は保守的な政党と深いつながりをもっておるというふうに一応考えておるんです

が、こゝろ点について、なにか要望なり、なんかを受けたことがあるかどうか。こゝろ点がひとつ。それから、委員を

選定するにあたって、選考委員会というふうなものをつくったかどうか。そういう点がひとつ。PTAに意見を

求めたかどうか。あるいは、それらの協会の関係団体からなんか申し入れがあったかどうか。この点について質問いた

します。

市長(田村利男君)お答えします。自民党、示唆があったかどうかということだと思いますが、ある地区ではあったように聞いています。はっきりいえば、東葛地区だとかいう話でございます。少なくとも、安房郡地区ではそういったケースはひとつもありません。選考委員会はつくりません。石井議長さんと二回会って大体こういうメンバーはどうでしょうという相談はしないことになっていきますが、たことは、石井議長さんだけでございます。それから、PTAの方に対して諮問したことはありません。ただし、婦人会あるいは、PTAあるいは個人からいろいろまた市会議員の中から、他薦なさった方がたくさんありまして、音に添い得なかったことをここにおわび申し上げます。

土番(吉田勇治郎君)そうしますといういろいろな関係の

団体からあるいは政治的団体から申し出た候補者に対しては全部はわつけたところのように解してよろしいですか。

市長(田村利男君)候補五人の石前はむしろ私個人。発意でありまして、石井議長にはこれだけの人はどうかと示した程度で、石井議長も意見も入っていないわけでございます。そつほかの意見は大体入っております。

十一番(吉田勇治郎君)最後に一番最後にあります畑の早川権治さんですが、こゝ方は非常に学校関係、その他、経歴も立派だと思ひますが、實際の教育委員の任務を果す場合に、そこは連絡が不備であります。が、その点はどうしように考へておりますか。

市長(田村利男君)失礼ですが、吉田勇治郎君のところよりは便利でございます。市長乗用車が玄関先まであります。



十一番(吉田勇治郎君)　そうしますと、不便な地域にあるものに  
対しては、市へ乗用車で便宜をはかるとこういう見解に立  
って御推選なさったんですか。

市長(田村利男君)　そういう見解ではありませんが、とにかく便  
利さを例えていったわけでありまして、普通手紙で一週  
間前に招集するとか、なんとかということになるので、おそら  
く歩いて出てくると思っています。

二十三番(蘆山ヨネ子君)　いもうお話を聞きますと、大体市長  
はほかからうあはは入れないで、個人の意味でというふうにお  
聞きしますが、それで一たらこゝ前へ連絡

ありまして、ときに、市長の言葉は私としては不満なんで  
す。ああいう表現をなさるときは、最初に女を尊重し  
こんどは、愚弄しているような感じ。

市長が一番御存知だと思います。そのために私は念を

押しまゝで、はつきりした

要望

「たんですけど政治的な意味があるかどうか知りませんが、今のお話が市長には意思がなかったとすればあゝいう言葉は是非もっと鮮明にいたいただきたいと思ひます。それからもうひとつ非常に女を婦人会に喜ばせてそゝて——なさうないとすべし、私は——有権者の方たちに代りましてはつきり申し上げなければならぬと思ひまして申し上げて一応ここにある方々は立派だと思ひますから、——

議長（石井潔君）他に御異議ございませぬか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よつて承認と決定いたします。

議長（石井潔君）——ばらく休憩いたします。

二十号

議長（石井潔君）休憩前に引き続きまして会議を開きます。

議長（石井潔君）お諮りいたします。日程第十二、報告第十大

号を上程する前に日程を変更いたします。本市議会副議長中村良五君の辞表の件についてお諮りしたいと思います。思いますから日程を変更することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。よって日程を変更いたします。日程第十一の次にいま申し上げた件をいれさせていただきます。本市議会副議長中村良五君には、このたび都合により、副議長、職をやめたい旨の

辞職願を提出さしました。この際本件に関する議事日程を追加してただちに審議したいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。よって日程は追加されました。副議長辞職についてを議題といたします。

辞職願の朗読を願います。

事務局長(高梨清一君)辞職願 私儀都合により副議長を辞任いたたく願いたします。昭和三十一年

月 日 中村良五 館山市議会議長 石井潔 殿

議長(石井潔君)ただいま朗読いたしましたとおり、辞職願が提出されたのであります。この辞職を許可するかどうかについて御審議をお願いいたします。お諮りいたします。本辞職願を許可することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議ないものと認めます。よって中村良五君が副議長に辞職は許可することに決定いたしました。

なお申し上げます。辞職願を許可がさかたうであります。

まず、後任副議長を選挙をいたすのでございますが、議長といたしましてはなるべく早い期間に御決定を願うことを希望いたします。本日この選挙をいたしますかどうかについてなおお諮り申し上げたいと存じます。

二十二番 (議長 副議長は一日も空席にすると

いうことはできません。こゝは辞任を認めたい以上、ただちに選挙をいたさないといたします。

議長(石井潔君) ただちに選挙という御意見があつたんでございすが、ほかにこゝに対する御意見見ございしますか。

二十五番 ( )

議長（石井潔君）——ばらく休憩いたします。

議長（石井潔君）評職願は受理することに決定さしましたのでございしますが、この後任副議長が選挙に関しましては、なるべく早い期間に選挙する。——ばらく時をおくということに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ないものと認めます。さうように決定いたしました。

議長（石井潔君）つづいて日程第十二、報告第十六号を上程いたします。

本件に関しましては、かなり重大性があります。いろいろ、人権問題、そういうふうなものに触れる点がございますので、本件に関しましては、当議会は監査の請求をしております。関係上、議会内において一応の報告を受けるといふ建前から、これから秘密会にいたらないと思ひますが、これに対して三分の二以上、御賛成がなければ秘密会になりませんので、この点お諮りいたします。秘密会に御賛成の方は御起立を願ひとう存じます。

(起立多数)

議長(石井潔君) 起立多数、秘密会に付することが決定いたしました。なおお諮りいたします。秘密会に保険課長、監査委員、説明者、といたしまして、監査委員書記、これだけの方をこの席におきますが、この点御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君)さよう決定いたします。

議長(石井潔君)申し上げます。開会に先立ちまして  
さる十月一日新しく選任されました。



